

疾患別治療薬の位置付けDB

■ 概要

- ・主な疾患の治療薬について、有効性、安全性、病態や患者属性別の推奨度、同種同効薬間の相違など、薬物治療管理に必要な多様な情報を一元化して搭載し、エビデンスに基づいた薬物療法を支援するデータです。

■ 特徴・機能

- ・対象疾患ごとに設定した「比較項目」により、各治療薬成分の評価を一覧で比較できます。
- ・成分ごとに治療薬として特筆すべきポイントを、簡潔なテキスト情報にまとめた「位置付けポイント」により、成分の特徴を端的に把握できます。
- ・効能・効果、薬物動態、一日薬価などの製剤別の情報をまとめた「個別医薬品項目」により、同一成分の製剤間での比較も可能です。
- ・疾患単位で各項目を設定しているため、疾患ごとに独立したデータとして抽出・利用が可能です。

■ 目的・利用場面

- ・病態、患者属性などに応じた適切な治療計画の立案や治療薬の選択支援にご利用いただけます。
- ・疾患における各成分の治療薬としての位置付け、特徴、同種同効薬との相違点などの比較参照にご利用いただけます。
- ・同一成分の異なる製剤を比較したり、適切な製剤を選択する際の一助としてご利用いただけます。

■ システム、Web等での表示例

(1)

骨粗鬆症	
治療効果	
●	骨密度上昇効果
●	椎体骨折発生抑制効果
●	非椎体骨折発生抑制効果
●	大腿骨近位部骨折発生抑制効果
●	QOLに対する効果
病型・重症度	
●	ステロイド性骨粗鬆症薬物療法の推奨度
●	閉経後骨粗鬆症
合併症	
●	甲状腺中毒症に合併する骨粗鬆症
●	糖尿病に合併する骨粗鬆症
●	CKDに合併する骨粗鬆症

疾患ごとの比較項目（概略）

(2)

骨密度上昇効果	
アレンドロネート	A
イバンドロネート	A [腰椎骨密度、大腿骨骨密度ともリセドロネートに比べ投与後早期から有意に上昇]
エストリオール	C [カルシウムとの併用で椎体骨密度を増加させた(経口剤)]
アルファカルシドール	B
ミノドロン酸	A

A: 上昇効果がある
 B: 上昇するとの報告がある
 C: 上昇するとの報告はない

比較項目における各成分の評価表示例（概略）

■ システム、Web等での表示例

(3)

イバンドロネート

分類
骨吸収抑制薬>ビスホスホネート製剤>第二世代

位置付けポイント

- 骨吸収抑制薬の中での新規骨折抑制効果：デノスマブ>イバンドロネート>アレンドロネート/リセドロネート
- 腰椎骨密度、大腿骨骨密度ともリセドロネートより有意な上昇効果あり
- 注射剤、経口剤とも1カ月に1回投与
ボラス投与が可能な唯一のビスホスホネート薬

イバンドロネートを有効成分とする製剤
ボンピバ錠100mg
ボンピバ静注1mgシリンジ

製剤ごとの比較へ

位置付けポイント（概略）

(4)

イバンドロネートを有効成分とする製剤

医薬品名称	ボンピバ錠100mg	ボンピバ静注1mgシリンジ
効能効果	骨粗鬆症	骨粗鬆症
対象疾患に関連する用法	骨粗鬆症： 1カ月に1回 (起床時)服用を1周期とする	骨粗鬆症： 1カ月に1回
最小用量1日薬価	57.15	115.86
最大用量1日薬価	57.15	115.86

個別医薬品項目の比較例（概略）

